

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月1日

上場会社名 アサヒホールディングス株式会社
 コード番号 5857 URL <http://www.asahiholdings.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺山 満春
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務担当 (氏名) 田辺 幸夫
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 東

TEL 03-6270-1833

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	56,700	—	4,902	—	4,893	—	2,806	—
21年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	87.11	—
21年3月期第3四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	49,228	28,334	57.6	879.52
21年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 28,334百万円 21年3月期 一百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期	—	25.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,000	—	6,600	—	6,600	—	3,600	—	111.75

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

業績予想につきましては、本日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
① 会計基準等の改正に伴う変更 無
② ①以外の変更 有
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|----|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年3月期第3四半期 | 36,254,344株 | 21年3月期 | 一株 |
| ② 期末自己株式数 | 22年3月期第3四半期 | 4,039,067株 | 21年3月期 | 一株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 | 32,215,482株 | 21年3月期第3四半期 | 一株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、景気、金融動向をはじめ様々な要因によって変動することがあります。
- (2) 当社は、平成21年4月1日にアサヒブリテック株式会社とジャパンウエイスト株式会社の共同株式移転により設立されました。当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年同四半期実績はありません。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成21年4月1日～平成21年12月31日）におけるわが国経済は、前年度半ばからの急速な景気の悪化に歯止めがかかりつつあるものの、円高やデフレの進行による雇用や内需の低迷が続き、先行き不安も強まる中、総じて厳しい状況で推移いたしました。

このような経済状況のもと、当社グループは平成21年4月にアサヒホールディングス株式会社を設立して持株会社制へと移行し、新たに策定した中期経営計画（平成21年4月～平成24年3月）に沿って、事業領域ごとの顧客ニーズをより一層的確にとらえながら、成長力を回復するとともに、全社的なコスト削減活動などを通して収益性の確保に努めてまいりました。

貴金属リサイクル事業領域において、金属市場価格の回復及びアジア地域をはじめとする輸出市場の復調などを背景に、当社グループの金属回収量は全般的に増加傾向にあるものの、当第3四半期累計では、銀を除き、前年同期の金属回収量を下回りました。金属平均販売単価については、金を除き前年同期の水準を下回りました。

環境保全事業領域においても、景気低迷の影響を受け廃試薬や廃油などの取扱量が減少しましたが、医療関連の取扱量は引続き堅調に推移しており、エレクトロニクス関連業種での廃棄物取扱量が徐々に回復しています。また、平成21年12月16日付で当社の連結子会社であるJWガラスリサイクル株式会社が、井尾ガラス株式会社からガラスのリサイクル事業を譲り受けました。なお、この事業譲受が当四半期連結損益に与える影響は軽微であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は56,700百万円、セグメント別では、貴金属リサイクル事業が47,695百万円、環境保全事業が9,004百万円となりました。一方利益面では、金属相場上昇による在庫評価損失の減少、全社的なコスト削減効果により、連結営業利益は4,902百万円、連結経常利益は4,893百万円、連結四半期純利益は2,806百万円となりました。なお、平成23年3月期から強制適用される、棚卸資産の評価方法に関する新会計基準を当期より早期適用し、後入先出法から総平均法に変更しています。この変更により、連結営業利益は363百万円増加しています。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、49,228百万円となり、当期首比で3,594百万円の増加となりました。その主な要因は、事業譲受による資産の増加及びたな卸資産の増加によるものであります。

なお、純資産は28,334百万円となり、自己資本比率は57.6%となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益4,832百万円に減価償却費1,597百万円を加え、棚卸資産の増加及び売上債権の減少等を加減した結果3,156百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業譲受による支出1,363百万円及び固定資産の取得による支出1,460百万円等により、3,303百万円の減少となりました。主な設備投資は、基幹システムのバージョンアップに伴うソフトウェアの取得等であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の純増加額1,989百万円及び配当金の支払額1,603百万円等により、376百万円の増加となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は2,065百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

(1) 通期連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成21年10月26日発表）	76,000	5,400	5,400	3,000	93 12 円 銭
今回修正予想（B）	80,000	6,600	6,600	3,600	111 75
増減額（B-A）	4,000	1,200	1,200	600	—
増減率	5.3%	22.2%	22.2%	20.0%	—

(2) 修正の理由

景気の先行きについては予断を許さない状況にありますが、貴金属リサイクル事業分野における、全金属の平均販売単価が当初の想定を上回って推移する見通しであること、金属回収量が回復基調にあること、および全社的なコスト削減に一層注力すること等により、通期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも前回予想値を上回る見込みとなりましたので、上記の通り修正いたします。

1株あたりの配当予想（期末25円）につきましては、変更ありません。

